



報道関係各位

2018年1月26日
公益社団法人企業情報化協会

—NEWS RELEASE—

「Super SE 100 人衆 (IT 優秀個人表彰)」第 4 期 11 名決定

公益社団法人企業情報化協会(通称:IT 協会)では、平成 29 年度「第 35 回 IT 賞」受賞企業の中から特に顕著な活躍・貢献したと思われる個人 11 名を選出し、このほど第 4 期の「Super SE100 人衆」として表彰する。

IT 協会では平成 26 年度より毎年 5 名から 10 名程度をめどに Super SE を選出しており、最終的には 100 名を目指す。

今年度 Super SE 100 人衆として表彰される 11 名は以下の通り。また表彰式を 2018 年 2 月 8 日に開催される「第 33 回 IT 戦略総合大会」会期内にて行う。

会社名	氏名
日清食品ホールディングス株式会社	板垣 義彦
みずほ情報総研株式会社	十川 恵美
総合メディカル株式会社	荒牧 勇太
野村ホールディングス株式会社	光成 公宏
ミサワホーム株式会社	飯島 宏美
関西電力株式会社	鶴岡 健
横河電機株式会社	須山 朋也
楽天カード株式会社	吉田 豊
ニッセイ情報テクノロジー株式会社	井平 康夫
エーザイ株式会社	久下 正史
エヌ・ティ・ティ・コムウェア株式会社	天王 満

(順不同・敬称略)

Super SE100 人衆とは

- IT 賞受賞企業からの人材候補者の推薦をベースに選定。人材候補は自社社員に限らず IT 推進のパートナーからも選出。ただし、事業や企業の経営者の地位・役割ではなく、IT 関連の実務家として卓越している人材を推薦するという視点から選定した。
- Super SE 選出には毎年 5 名～10 名をめどに行い、対象者の数を増やしていくことを目指し、最終的には 100 名を目指す。なおある程度の蓄積が得られたら、IT 協会において「IT 上質人材像」の具体化のための研究に結び付けていく。
- また受賞者の推薦理由を IT 活動領域とタイプ別のマトリックス(推薦シート)の上にプロットし、どのような行動様式や思考様式を持った人材がどのような業績をあげるかという関係性を分析する。これによって、現実的かつ経験的に辿ることができる卓越人材のスキル特性を描写することを最終目標とする。

➤ Super SE100 人衆選考の視点

- 1) ビジネスやマネジメントに関する独自の視点やアイデアの発揮
- 2) 企業価値、商品価値向上に資する IT 活用アイデアの提供と具現化
- 3) 顧客もしくは自社における新たなビジネス創出への関与と貢献
- 4) ユーザの業務に対する本質的な理解
- 5) 安全・安心・コンプライアンスの遵守への貢献
- 6) プロジェクトマネジメントスキルおよびリーダーシップ
- 7) IT の動向や活用に関する理論・技術への見識と適用
- ※人材像を理念型として描く時には往々にして期待される全ての特性や能力を備えた「スーパーマン」を求めるような議論になりがちであるが、ここでは上に述べた七つの視点の全てを兼ね備えた「幻の人材」を探し求めるのではなく、七つの視点(七芸)の中の一芸・二芸・三芸に秀でた実在する人材を探し、そこから理念型としての理想人材を想定することを考えた。

IT 賞とは



公益社団法人企業情報化協会では、昭和 58 年 3 月に設定した情報化優秀企業・自治体・機関・事業所等表彰制度に則り、わが国の産業界において、“IT を活用した経営革新”に顕著な努力を払い優れた成果をあげたと認めうる企業・機関・事業所・部門あるいは個人に対して IT 賞を授与している。このたび、平成 29 年度 IT 賞審査委員会(委員長: 斎藤信男 慶應義塾大学名誉教授)において、厳正な審議のもと、25 社 18 件の受賞を決定した。

平成 29 度IT賞「Super SE 100 人衆」受賞者と推薦理由

受賞者名(敬称略)	会社名・所属
板垣 義彦	日清食品ホールディングス株式会社
<p>【推薦理由】</p> <p>「やめたらいいのに」を合言葉に、メインフレームも含めて180に膨れ上がったシステムを集約・削減し、効率的なシステム保守運用を目指した。対象者は、このプロジェクトにPMOとして参画し、「参画メンバーが情報企画部のほぼ全員であること」と、「対象システムのプラットフォームや業務領域が多岐にわたるため、一つの気付きや漏れが横串で刺さりにくいこと」をプロジェクトの特徴と位置付け、多数ある廃止対象システムについて、メインフレームやイントラネットなどの5グループに分類し、それぞれについて機能配置先やシステム間接続、過去データの扱いなどの論点を整理した上で、進捗が一目でわかる「進捗ダッシュボード」を作成した。多くの参画メンバーに進捗がシンプルに伝わり、グループもしくは論点がプロジェクト途中で追加されても、横串チェックが網羅的に可能な仕組みを整備し、プロジェクトの成功に寄与した。また、業務部門との折衝についても、エンドユーザ視点で合理的な提案を行い、ユーザの反発を招くことなくシステムを廃止させた。</p> <p>180あったシステムは7割削減され、メインフレームと周辺システムの廃止で3億円を超える運用保守費用を削減、月平均40時間以上であった残業時間も現在では16時間未満に削減された。情報企画部が「システムを運用する部署」から、「システムを企画・提案する部署」へと意識が変化するきっかけとなった。</p>	
十川 恵美	みずほ情報総研株式会社
<p>【推薦理由】</p> <p>1. プロジェクトの内容</p> <p>みずほ銀行におけるオープンバンクAPIの開発に参画。</p> <p>同プロジェクトは、新技術の導入案件として、2段階で開発。</p> <p>2016年度上期に技術検証の上、同下期にシステム開発、翌2017年5月にサービスを開始。</p> <p>また、2016年12月よりAPI機能のプロトタイプをFINOLAB(コワーキングスペース)へ提供。</p> <p>2. 役割</p> <p>本開発プロジェクトにおけるシステム部門のPMOメンバーとして、新規APIGWの構築・導入、および、既存銀行システムにおけるAPIの開発・推進を担う役割。</p> <p>3. 実績・成果</p> <p>オープンAPIの導入において最も重要なOAuth認証フローの設計、新規APIGWの導入・品質評価を担当。設計では、RFCに基づく認証フローの詳細について、例外やセキュリティ等多面的な検証を実施。更にユーザーや利用する外部システム視点で使い易さにも十分に配慮してAPIインターフェースを策定。テスト、本番リリースにおいても、開発者兼PMOとして高い品質を担保し、安定したサービスの提供を実現。</p>	

荒牧 勇太	総合メディカル株式会社
<p>【推薦理由】</p> <p>システム化(プロジェクト): 総合メディカルグループの会計システム改革プロジェクト 役割: インフラ構築の実施責任者(インフラ選定・インフラ要件定義・システム設定・試験・稼働立上げ) 実績: 2015年5月 プロジェクト開始 ~ 2012年12月 システム開発環境の整備・構築 2016年1月~3月 検証・本番環境の評価・選定(複数のクラウドベンダーから選定) 2016年4月~9月 検証・本番環境の構築・テスト・データ移行作業などを計画通りに実施</p> <p>アプリケーション開発で完成した会計機能検証について、つまりSAP会計システム特有の設定作業(移送)やインメモリDB(HANA)の設定など、今回のプロジェクト全体のスケジュールと連動した緻密なインフラ面の整備が必須かつ重要であった。今回、プロジェクトを遅延なく完遂できたのも、システムのインフラ面・性能面での安定性が大きく寄与しており、本人の献身的な努力結果の賜物である。</p> <p>また、各基幹システムと会計システムのマスターデータ連携において、ETL/EAIツールを含めデータ連携基盤整備を進めた。さらに、バックアップ・クラウド基盤(東日本⇒西日本)のDR(Disaster Recovery)の構築に関し、当社として初めての試みで難易度も高い内容であったが、本プロジェクト内で併せてSAP社・IIJ社と協力して実施できた。IT基盤に対し、積極的に新技術を取り入れようと努力し業務に生かす点では、システムイノベータとしての素質があり、企業の付加価値向上に対し取り組んでいる。</p>	
光成 公宏	野村ホールディングス株式会社
<p>【推薦理由】</p> <p>○役割 受賞テーマ「レガシーシステムからの完全脱却(COB)プロジェクト」の事務局をPMOとして牽引 (プロジェクト全体の進捗、課題管理及び業務見直しを含む関係箇所との調整)</p> <p>○実績と成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーポレート、ホールセール及びリテールに及ぶ部門横断的なプロジェクトにおいて、ガバナンス確立時期は、マイルストンの設定やプロジェクト内の各活動体間の調整をリードし、プロジェクトの全体像を整理した。 ・広範囲の証券業務を適切に理解し、業務執行における最適なシステム利用を実現するために、現行踏襲をしない新たな業務フローの構築に寄与した。 ・プロジェクト進行時は、キーパーソンへの綿密なコンタクトを含めて常にプロジェクトの実態把握に努め、スケジュール遅延等の問題は極力未然に防ぐ状態を維持する等、実効性の高いリスクマネジメントを講じた。 ・各活動体の問題の発生は早期に検知し、部分最適とならぬ様、常にプロジェクト全体の視点を持って迅速に対処し、品質改善ポイントの抽出や各活動体間の各種調整を主導的に行った。また、問題の波及を最小限にするために各活動体を横串しに総点検する等、抜本的な手法で活動を立て直し、プロジェクトを成功に導いた。 	

飯島 宏美	ミサワホーム株式会社
<p>【推薦理由】</p> <p>昨今、住宅営業の競争が激化する中、顧客に高品質で訴求力をもつプレゼンテーションを行うため、CADパース作成の新システムを構築した。本システムでは、一般的なパソコンでは長時間を要する高精細なレンダリング処理をパブリッククラウド上の高性能インスタンスで展開することで、大幅な処理時間の短縮、臨場感溢れる360度パノラマ画像の作成、更には運用コストの低減を可能にしている。一連の開発プロセスにおいては、システム開発担当として営業から設計まで職種の異なる担当者間の多様な要望をとりまとめ、それぞれのニーズ、要求仕様を調整し、開発プロジェクトを円滑に推進した。開発期間中には一時、育児休暇を取得したが、重要タイミングでは在宅テレワークによりプロジェクトに参画し、当初計画通りのシステム稼働を実現した。現場への導入、業務フローの標準化、ノウハウの共有化を実現するため、社内SNSの活用、イベント展開などの新手法も取り入れ、従来の保守的な営業現場に変化を与える契機ともなっている。</p>	
鶴岡 健	関西電力株式会社
<p>【推薦理由】</p> <p>「ピングデータ分析による太陽光発電量予測精度の向上」プロジェクトにおいて、分析計画の立木安、データの理解・準備、分析、ユーザ部門への説明から業務適用までの一連の取り組みを中心となって実施した。</p> <p>取り組み内容は日射量とスマートメータの計測値(発電量)の比較というシンプルなアイデアだが、膨大なデータ量を効率良く処理するエンジニアや、結果の妥当性を正しく判断する業務理解力を発揮した。その結果、計画から10ヶ月程度という短納期で業務適用までを実現し、年間数千万円オーダーの利益創出と共に、再生エネルギーの更なる効率利用という社会的貢献も実現した。</p>	
須山 朋也	横河電機株式会社
<p>【推薦理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受賞テーマ「高効率グローバル企業への変革を支える経営情報基盤の整備」において、SEリーダーとして、シングルインスタンスによるグローバル情報システムの実現という難しい課題に挑戦し、短期間並行導入（2年間で40拠点）を確実に実行した。 ・グローバルにシングルインスタンスの実現は、各社プロセスの整理、統合を含め解決すべき課題も多く あったが、チームメンバーを指導し、自らも現地作業に従事し、これを実現させた。 ・目指す方向を明らかにし、振れることなく業務再設計、システム開発、導入を実現させた実力を持つ者 としてSuperSEに推薦する。 	
吉田 豊	楽天カード株式会社
<p>【推薦理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基幹システムの中核を担った10年以上の経験を活かし、当社の基幹システムを短期間に 高品質でオープンシステム化するプロジェクトに貢献した。 ・クレジットカード業界のシステムは複数の専門領域で構成されているが、特定の領域に とどまらず、広く深い範囲で役立つ業務知識の根幹を抑えている。 ・「未使用資産の削減」「品質を担保するためのテスト計画の立案」「テストで発生した課題の 対処」等、品質を確保するために業務に対する本質的な理解が求められる最重要タスクの 推進責任者として、その役目を完遂した。 ・今回の活躍で証明された高い視座と広い視野は、基幹システムのオープン化後に当社が 何を改善していくべきか、どんな新規ビジネスを創出できるか、の観点でも大いに役立っており、当社システム戦略の立案と具現化の中核を担う活躍を継続している。 ・これから何を行う上でも、当社に求められるのはお客様からの信頼である。その礎となる地 に足の着いた成果を発揮し続けることのできる人材である。 	

井平 康夫	ニッセイ情報テクノロジー株式会社
<p>【推薦理由】</p> <p>大手保険会社様における銀行窓販保険商品のビジネス規模拡大に伴い、バックオフィス業務の再構築プロジェクトである。本プロジェクトは、RPAの導入により業務量増加に伴う人手不足解消および業務ピーク時との業務量の変動幅吸収を目的としている。対象者においては、「新技術の導入による業務効率化」「ユーザーでのメンテナンス機能の構築」「新商品販売、既存商品改訂のコーディングレス開発を実現する仕組みの構築」といったユーザーの本質的課題の解決に向けた取組を実現するため、業務プロセス分析、課題検討からシステムのリリースまで全期間に渡りプロジェクトを推進した。これにより、バックオフィス業務の再構築による業務効率化だけでなく、将来発生する保守開発を低コスト、短期間での対応を可能とし、顧客からの高い信頼と評価を得た。</p> <p>また、これまで自社に無かったRPAの開発技術、ノウハウの蓄積に加えて、新たなビジネス創出に大きく貢献した。</p>	
久下 正史	エーザイ株式会社
<p>【推薦理由】</p> <p>当社に入社する前は広告代理店に在籍し、マーケティング視点で企業価値の創出に取り組んできた。起業経験も有し、新たな価値創出に向け従来の型を破るイノベーターとして、また経営者としてシステム開発に挑戦した。当社に入社後は、これまでの経験を活かして、BtoCの通信販売ビジネス部門にて顧客情報の収集、分析を担い、新たな顧客価値の創出と事業の成長に貢献している。また、2025年問題を見据え、データサイエンティストとしてAI導入の検討にリーダーシップを発揮している。</p>	
天王 満	エヌ・ティ・ティ・コムウェア株式会社
<p>【推薦理由】</p> <p>システム化(プロジェクト)の内容とこれに関わる役割・実績と成果</p> <p>受賞テーマにおいて、最も難易度の高い「人事領域」のプロジェクトリーダーを担当。システム仕様・課題・品質管理・スケジュール管理・コスト管理を統括し、プロジェクトメンバの指導、育成を行いながら自らも率先して業務を主導した。ユーザ、および海外子会社を含めた関連会社と密に連携し、信頼関係を築きながら開発を成功へ導いた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトの立ち上げから、要件整理、開発、サービスのリリースに至る全ての期間においてリーダーシップを発揮し、プロジェクトを強力に推進。 ・ユーザー要件を十分に理解し、要件を整理。ただ言われた要件を実現するだけでなく、システムの専門家としてユーザと何度も議論を重ね、+αの提案を実施しながらより良いシステムを開発。 ・数多くの関連システムとのデータ連携を標準化し、スケジュールの短縮、コスト削減に大きく貢献。 ・欧州GDPRの対応をはじめとした難易度の高い調整を、実直に、かつ粘り強く対応する事で克服し、ユーザ、および海外子会社を含めた関連会社の信頼を獲得。そのリーダー像は、若手が目指す理想の姿として活躍している。 ・インメモリDB(SAP HANA)をはじめとし、初めて扱う技術にプロジェクトメンバが戸惑う中、その分野の先端となるベンダを調達し、スキルトランスファーをしながら案件を進め、次期の開発の主力を担う人材を数多く育成。 	

公益社団法人企業情報化協会(IT協会)について

名 称 :公益社団法人企業情報化協会(通称:IT協会)
会 長 :宇治 則孝(元日本電信電話株式会社 代表取締役副社長)
設 立 :1981年7月16日
会員数 :200社
所在地 :〒105-0011 東京都港区芝公園 3-1-22 日本能率協会ビル 3階
電 話 :03-3434-6677 URL:www.jiit.or.jp

※本件に関するお問い合わせ先

公益社団法人 企業情報化協会(IT協会) IT 賞事務局 E-Mail: info@jiit.or.jp
〒105-0011 東京都港区芝公園 3-1-22 日本能率協会ビル 3階
TEL 03-3434-6677 FAX 03-3459-1704

以 上